

ビザを手にしたユダヤ系避難民のその後

千畝が発給した日本の通過ビザを手にし、日本に上陸したユダヤ系避難民の多くは、カウナスを出たのち、シベリア鉄道に乗り、ウラジオストクの港から船で敦賀港に到着しました。その後、神戸や横浜などを経由し、アメリカ合衆国やカナダなどの第三国に渡っていきました。



ユダヤ系避難民の脱出ルート

ユダヤ系避難民が上陸した敦賀港

千畝が発給したビザを持ったユダヤ系避難民が上陸した敦賀には、過酷な状況で上陸したユダヤ系避難民に対して、果物の入った籠を無償で置いていった少年や、港近くにあった銭湯を無料で開放した話など、心温まるエピソードが残されています。



ユダヤ系避難民が上陸した頃の敦賀港（「ふるさと敦賀の回想」より）

イスラエル政府から贈られたメダル

1985(昭和60)年、85歳になった千畝に、「諸国民の中の正義の人賞」(ヤド・バシエム賞)が贈られました。これは、命がけでユダヤ人を救った外国人に、イスラエル政府から贈られる最高の名誉賞です。千畝に贈られた記念のメダルには、「一人の命を救うことは、全世界を救うに等しい」と書かれています。

ビザ発給から45年の月日が流れても、千畝の功績は讃えられています。



「諸国民の中の正義の人賞」のメダル

少年像「勇氣」千畝十六歳

名古屋市では、2020(令和2)年の「命のビザ」発給80年の節目の年に、千畝の「功績」と「名古屋とのゆかり」を次の世代へ大切に伝えていくため、広く寄附金を募り少年像を制作しました。

千畝少年像は、「五中」の徽章のついた学生帽をかぶり左手に英語の教科書を抱えています。

将来、外交官となってリトアニア・カウナスの地で大きな決断を迫られたとき、千畝の背中を押した「勇氣」を表現しています。



少年像「勇氣」千畝十六歳

杉原千畝 関連施設の紹介



杉原千畝記念館

The Chiune Sugihara Memorial Hall



岐阜県加茂郡八百津町八百津 1071
電話: 0574-43-2460

バス利用

名鉄 明智駅から「YAOバス」八百津町ファミリーセンター下車
JR美濃太田駅から東鉄バス八百津町ファミリーセンター下車
八百津町ファミリーセンターより
(平日) 定時運行バスやおまるに乘換 人道の丘北下車
(土日祝日) 無料シャトルタクシーに乘換

車利用

東海環状自動車道 可児御嵩インターより約 20分

- 開館時間
午前 9時 30分～午後 5時 (午後 4時 30分までに入館)
- 休館日
毎週月曜日(祝日または振替休日の場合は、翌平日)、年末年始
- 入館料金
大人(高校生以上) 300円
中学生以下 無料
団体割引有



杉原千畝記念館ウェブサイト



人道の港 敦賀ムゼウム

Port of Humanity TSURUGA MUSEUM



福井県敦賀市金ヶ崎町 23-1
電話: 0770-37-1035

バス利用

敦賀駅西口 ぐるっと敦賀周遊バス(観光ルート)
「金ヶ崎緑地(敦賀ムゼウム)」下車

車利用

北陸自動車道敦賀インターチェンジから約 10分

- 開館時間
午前 9時～午後 5時 (午後 4時 30分までに入館)
- 休館日
毎週水曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始
- 入場料
大人 500円 / 小学生以下 300円(4歳未満は無料)
団体割引有



人道の港
敦賀ムゼウム
ウェブサイト



杉原千畝広場 センポ・スギハラ・メモリアル

Chiune Sugihara Square AICHI PREFECTURE "SEMPO" SUGIHARA MEMORIAL



当施設は、オープンスペースのため、御自由に御覧いただけます。
なお、学校施設内にあるため、授業等に支障のないよう御配慮をお願いします。

名古屋市長瑞穂区北原町 2-1
(愛知県立瑞穂高等学校正門西側)
電話: 052-954-6827(愛知県教育委員会総務課)

バス利用

市バス 瑞穂区役所下車 西へ約 450m
市バス 豊岡通下車 北へ約 650m

地下鉄利用

地下鉄桜通線「瑞穂区役所駅」(4番出口)から西へ約 400m
公共交通機関でお越しください。(駐車場、トイレはありません。)

関連施設の情報は、令和8年3月時点の内容です。最新の情報は、各施設のウェブサイト等でご確認ください。

問い合わせ先

名古屋市総務局総合調整課
電話: 052-972-2223 FAX: 052-972-4112



市ウェブサイト

写真提供: NPO杉原千畝命のビザ、八百津町、敦賀市

令和 8 年 3 月発行



すぎはら ちうね

杉原 千畝

じんだう みち
人道の道ルートマップ



杉原千畝 (1900-1986)

「命のビザ」で知られる杉原千畝は日本の外交官です。第二次世界大戦中に千畝は迫害から逃がれようとするユダヤ系避難民に 2,000 通を超えるビザを発給し、多くのユダヤ人を救いました。

千畝は少年期の約 10 年を名古屋で過ごしました。千畝の功績を讃えて、当時の居住地付近から出身校である愛知県立第五中学校(現在の愛知県立瑞穂高等学校)を結び、「杉原千畝 人道の道」と名付けました。

杉原千畝 人道の道 ルートマップ

杉原千畝は少年期の約10年間を名古屋で過ごしました。当時の居住地付近から出身校である愛知県立第五中学校（現在の愛知県立瑞陵高等学校）を結び、「杉原千畝人道の道」と名付けました。

- 人道の道ルート
- ☆ 銘板(6箇所)
- ◎ 案内板(2箇所)

500m

杉原千畝について

外交官になるまで 〔1900(明治33)年～1923(大正12)年〕

1900(明治33)年、岐阜県で生まれた千畝は、父・好水の仕事の都合で、小学校低学年のときに名古屋市古渡 尋常小学校（現・名古屋市立平和小学校）に転入しました。

1912(明治45)年、尋常小学校を卒業した千畝は、愛知県立第五中学校（現・愛知県立瑞陵高等学校）に進学し、1917(大正6)年に卒業しました。

その後、早稲田大学に入学しましたが、1919(大正8)年に外務省留学試験に合格し、ロシア語を学ぶ留学生として、ロシア人が多く暮らす中国東部のハルビンに向かいました。



中学時代の千畝
(卒業アルバムより)

外交官時代① ～ビザ発給まで～ 〔1924(大正13)年～1939(昭和14)年〕

1924(大正13)年、千畝は外務書記生に任命され、1925(大正14)年からハルビンの日本総領事館で働き始めました。満州国外交部へ移籍したのち、日本外務省に復帰し、1937(昭和12)年に在ヘルシンキ日本公使館に赴任し、1939(昭和14)年にリトアニアの在カunas日本領事館の領事代理となりました。

そのころ、ヨーロッパではナチスが勢力を広げ、ユダヤ人への迫害が増大していました。国外脱出を図るユダヤ系避難民は、一時避難をしていたリトアニアから、ナチスの脅威が及ばない安全な地域への逃亡を目指していました。



満州国外交部時代の千畝

外交官時代② ～ビザ発給～ 〔1940(昭和15)年〕

1940(昭和15)年7月18日の早朝、ポーランドからリトアニアに逃亡してきたユダヤ系避難民が、ソ連によるリトアニア併合の動きから早急に国外への脱出の必要を感じ、日本領事館に通過ビザを求めて大勢殺到しました。緊迫した中、千畝は外務省と連絡をとりましたが、外務省からの命令は「発給要件を満たさぬ者へのビザの発給はならぬ」というものでした。しかし千畝はユダヤ系避難民に対し、ビザ発給を行いました。

晩年、千畝はこう述べています。「苦慮、煩悶の揚句、私はついに、人道、博愛精神第一という結論を得た。そして私は、何も恐ることなく、職を賭して忠実にこれを実行しえた、今も確信している」



日本領事館前でビザ発給を訴えるユダヤ系避難民たち